

巣発ちの時

家族から保育園という社会
そして、人生初の巣発ちかな？
宮田保育園、南松本保育園
の「お別れ会」取材しました。

「宮田保育園お別れ会」

三月三日のひな祭りに「お別れ会」が行われると聞き、保育園を訪れました。ホールには既に年中組が着席してリハーサル中でした。年少組が着席すると本番になり、年長組は一人ずつ「想い出のアルバム」の演奏に合わせて入場し、用意されていたひな壇の席に着席しました。しばらくの間は全員で歌を歌い、可愛らしく素敵な盛り上がりを見せました。続いて園長先生から、今日に向けて努力してきたこと、今日のお祭りにお腹の痛いお友達や風邪をひいて参加できないお友達がいて残念なこと、お昼の食事は美味しいパンが待



つていること等のお話に続き、もう少しすれば寂しいけれど、年長組の皆とお別れしなければいけない・とやさしく話しかけられました。
次のステージはプレゼントの交換と進みました。年少組から年長組へ、年中組から年長組へ、また、お返しに年長組から年中組へ楽器カバリの伝達があり、それぞれの感謝の言葉で会が終了しました。年長組はこの後一人ずつピアノの演奏に合わせて退席となりましたが、胸にジーンとくるものがありました。
(田中 紀彦)

「南松本保育園お別れ会」



南松本保育園のお別れ会は3月10日に行われました。この会は年中さんが主となり、今までお世話になった感謝を込めてお送りする会です。保育園のいくつかの行事のなかでも大切なもので、4月から年長さんとなる年中さんは、当日の司会、仕切り、プレゼント(手づくり)の用意、年長さんへのお礼、そして、自分たちが年長さんとなる自覚を促す意味を持つ大切な機会です。

当日の食事メニューはアンケートで年長さんの一番人気を用意し、二時間近くの時を過ごしました。卒園前の最後のイベントでしたが、良くできたと園長先生から褒めていただき誇らしげでした。
(百瀬 壽)

楽しかった 「親子お楽しみ会」

松南地区子ども会育成会主催の「親子お楽しみ会」は、「みんなで楽しくパフォーマンス」のタイトルのもと、2月22日(日)松南地区公民館の大会議室で行われました。予想に反し、受付が混雑する程の大勢の児童、保護者が参加し、役員一同嬉しい悲鳴をあげました。

講師はサーカスアーティスト 小金井圭介さん。第一部は軽快なリズムに乗り、パントマイムや楽しい個人技を見せていただき、第二部は大勢の児童が前に出てきて皿回しの練習をしたり、今まで無かった賑やかさに驚き、これこそ児童参加型のパフォーマンス。人気のパルーンアートのプードル制作では低学年の女子児童が目を輝かせて並び、最後まであつという間の楽しいひと時でした。
(中田 清和)



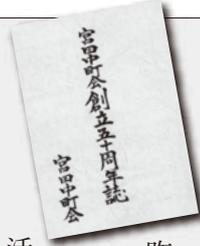
諏訪湖へ白鳥を観て

2月21日の土曜日、公民館と福祉ひろば共催の「ひるぼウォーキング」のスペシャル版。今回は、諏訪湖の周りをウォーキングしながら、白鳥をはじめとした水鳥を観察しました。
当日は好天に恵まれ、下諏訪町の一ツ浜公園から岡谷市の釜口水門まで、全行程約5キロメートルを1時間半かけてゆつくり歩きました。スタート地点の公園からはうっすらと富士山の姿が。湖畔を歩く途中では、同じくウォーキングをされている方、部活動でランニングをする中高生、小さなお孫さんと散歩中の高齢者の方など、幅広い世代の方とすれ違い、挨拶を交わしました。
コースの中盤に白鳥の滞在中の箇所があり、運よく北帰行の前にその様子を観察できました。上條館長の解説付きという事もあり、満足度の高い内容でしたので、次年度も継続して開催できたらと思います。



わがまちのお宝〈宮田中町会〉

我がまちの宝：それは、町会発足から50年を経過した足跡と、それを文字として記録した冊子を作製し、全戸配布が完了したことです。



例えば一昨年四月新役員による会議に、活動方針打ち合わせの際に町会発足五十年目にあたる今年度、記念イベントの開催と、住民各位の今までの生き様、町会の推移等の心の内を冊子として作成しようとの決定を見ました。

イベントは、通年の文化祭をこれに変わって行うこととし、冊子(宮田中町会創立五十周年誌)は記念式典の後に、取り組むことになりました。

その年、11月23日、多数の来賓の皆様ご臨席のもと、創立五十周年記念式典を挙行することができました。余韻に浸る間もなく、直ちに記念誌発行の原稿募集を行い、大勢の皆様のご寄稿文と貴重な写真をお借りすることができました。こ

のなかには命名の由来、及び、その変遷、激動の時代の営みが綴られており、資料は、高宮東の在するミツワ商会(株)様のご支援ご配慮をいただき「宮田製作所創業七十周年誌」を使用させて頂いたいただきました。町会行事は写真により活気に満ちた若い笑顔と元気さ等が感じられます。お祝い文は開明小学校、宮田保育園、松本理容美容専門学校、社会福祉法人ちくま、中川県議、近藤市議の皆様に出しました。

寄稿文は、宮田製作所宗家の宮田泰郎様、歴代の町会長ほか多数の方々の思い出深い想いを寄せていただきました。

戦前、宮田製作所は三千名の従業員を擁し、その住宅は五千坪に亘り、ここを宮田町と称し、以後、この町名が現実に至っている旨の記録は感慨深いものがあります。

締めめの町会長の挨拶は、町会の皆様のご健勝とご多幸を併せて町会の更なる発展を祈念するといふものでした。

(田中 紀彦)



ひと伊藤正子さん

今回は双葉南町会の伊藤正子さんをお訪ねしました。カラオケが唯一の趣味だとおっしゃる伊藤さんですが、昨年は「安曇野市長杯」で見事優勝を果たしました。ただ、目立つことが嫌いな性格のため、優勝カップも普段は箱に入れたままです。(今回は特別に拝見させていただきました)

本格的にカラオケを始めたのは約15年程前からですが、小学校四年生の時に自分の意思で「松本児童合唱団」へ入団。そこで歌唱の基本を学んだことが今のベースになっているようです。また、年に数回の発表会を心待ちにしているとのことでした。上手に歌うコツをお尋ねしたところ、以前は双葉南町会の伊藤正子さんをお訪ねしました。カラオケが唯一の趣味だとおっしゃる伊藤さんですが、昨年は「安曇野市長杯」で見事優勝を果たしました。ただ、目立つことが嫌いな性格のため、優勝カップも普段は箱に入れたままです。(今回は特別に拝見させていただきました)

歌うことでストレスの解消ができた、新たな仲間ができたりと、カラオケのメリットは沢山あるようですが、一番のメリットは健康に良い、そして、ボケ防止にも繋がるのではとお考えも伺いました。お歳を召された方もカラオケ大会では見事な歌声を發揮されるケースも多々見受けられるようです。

る、以前レッスンを受けていた先生が、繰り返しお話をしていた言葉を教えていただきました。それは、「歌詞をしつかりと理解すること」

こうすることで歌に愛情を込めて歌うことができるようになり、上達も早いようです。以前にはテレビの、のど自慢にも挑戦した経験もありませんが、今は自分なりのペースで歌を楽しみたいとおっしゃいます。また、職場でも良い方に恵まれていると笑顔でお話が続きます。

確かに、お腹から声を出す、歌詞やリズムを覚える等の行為は、そういった作用もあるような気がします。

カラオケは酒を飲みながら酔っぱらった勢いで一曲といったイメージがありました。今回お話を伺い、もっと高尚で素敵な趣味だと感じました。

(伊藤 和彦)

コラム松南

昨年は、家の周りの後片付けの済まないうちに雪が降り、その後寒さが続いたため思うように作業が進まず、年が明けてしまいました。また、一月に入っても三週続けて雪が降り、その雪が解けて凍って大変でした。そんななか、二月の終わりの暖かな日、庭に出てびつくり。福寿草が寒さ除けにかがせておいた藁の下で鮮やかな黄色の花を開いていました。思わず「こんなに寒い日が続いていたのに、良く咲いたね」と声をかけました。確実に季節は春に向かっていくことを実感したひと時でした。

周りに眼を向けると、芝生の中には雑草が出ていますし、畑の隅には「はこべ」が青々と生えています。まだまだ寒く、畑もぬかるんでいてまだ入れないけれど、これから雑草との戦いが始まると覚悟しています。「暑さ、寒さも彼岸まで」と言いますが、もうすぐです。暖かい地方から桜の便りも聞かれますが、寒い松本は未だ未だです。陽の日差しが柔らかくなり、満開の桜の花を見ながらウォーキングができる日が楽しみですね。

(高橋 愛子)